

株式会社フィックスターズ

2024年9月期 第2四半期決算補足説明資料

2024/5/9

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2024年9月期 第2四半期 決算説明

・ 2Q累計で過去最高の売上・利益を達成

- ・ 売上高 : 3,906百万円 (前年同期比+9.5%)
- ・ 営業利益 : 1,179百万円 (前年同期比+18.2%)

・ Solution事業 : 着実な成長を続ける

- ・ 高速化サービスを中心に旺盛な需要
- ・ VAR事業など、ストック型収益モデルの構築に向けた取り組みを強化
- ・ 積極的に人材採用活動を実施

・ SaaS事業 : 収益化に向けて各事業を推進

- ・ 各事業に対して積極的に投資を継続
- ・ LLM開発基盤クラウドサービス「Fixstars K4」リリース

連結損益計算書

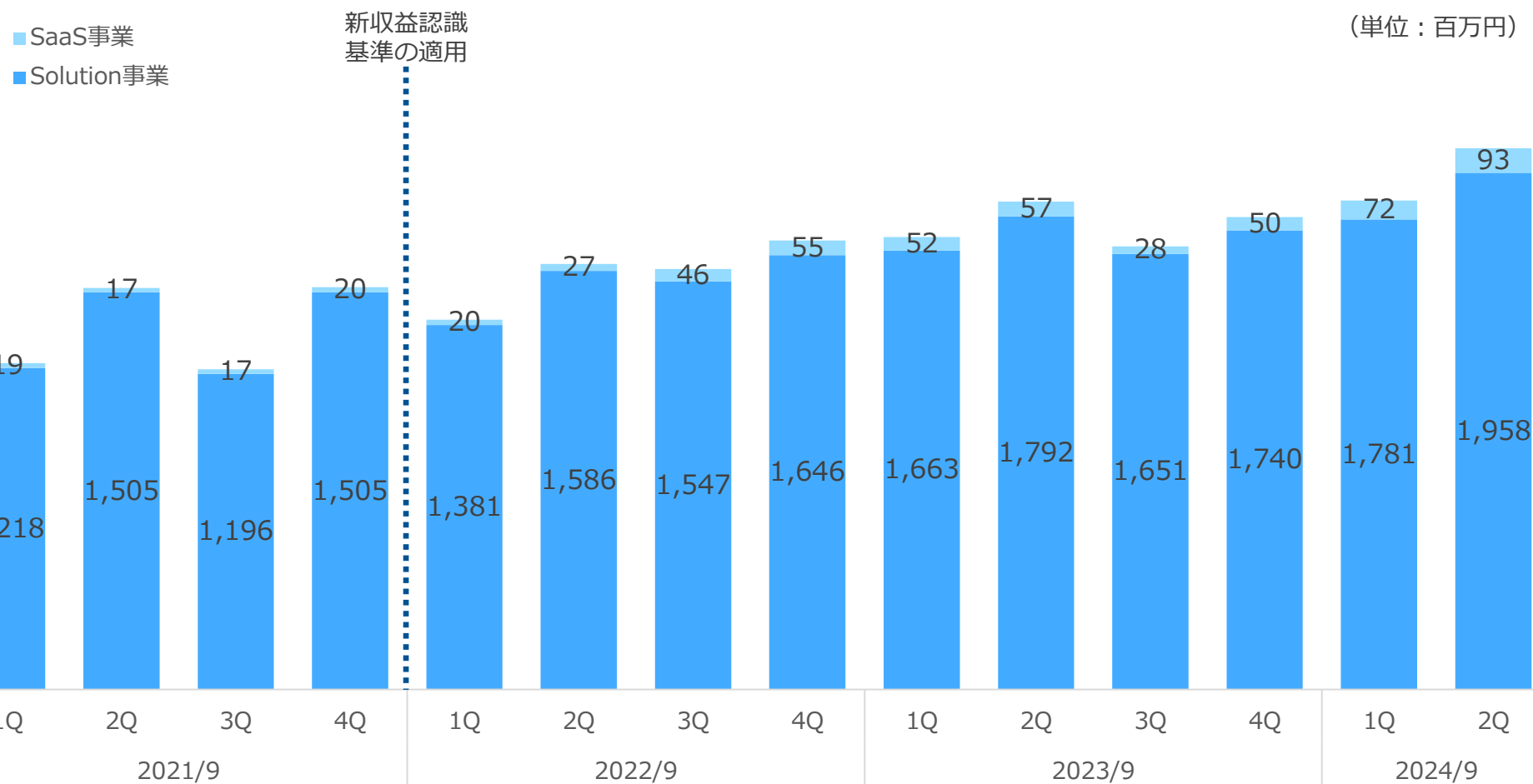
前年同期実績・上半期の業績予想をともに上回って着地。

現時点での上振れ幅は小幅であり、通期業績予想は据え置き。

| (単位：百万円) | 2023年9月期 2Q累計 | 2024年9月期2Q累計 | | | |
|---------------------|------------------|--------------|-------|--------|--------|
| | 実績 | 業績予想 | 実績 | 前年同期比 | 業績予想比 |
| 売上高 | 3,566 | 3,700 | 3,906 | +9.5% | +5.6% |
| 営業利益 | 998 | 1,050 | 1,179 | +18.2% | +12.3% |
| 売上高営業利益率 | 28.0% | 28.4% | 30.2% | +2.2pt | +1.8pt |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 653 | 700 | 762 | +16.6% | +8.9% |
| 売上高当期純利益率 | 18.3% | 18.9% | 19.5% | +1.2pt | +0.6pt |

売上高

前期3QにおけるSolution、SaaS各事業の落ち込みは一過性に留まり、
Solution、SaaS各事業とも過去最高の四半期売上高を計上。



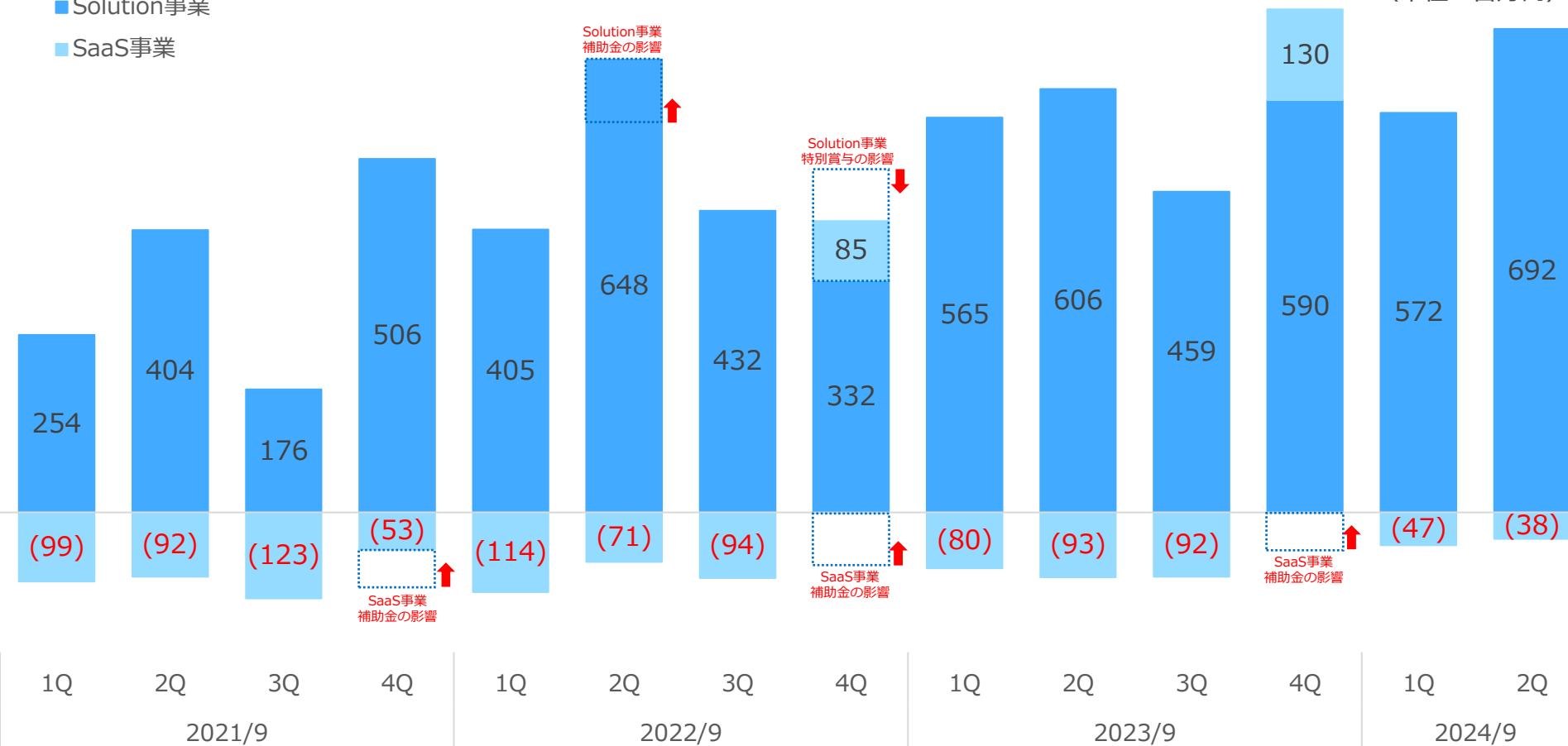
営業利益

Solution事業において安定的に収益を獲得し、引き続きSaaS事業へ積極的な投資を実施。

Fixstars Amplify社の黒字化等に伴い、SaaS事業の赤字は縮小傾向。Solution事業においては、過去最高の四半期営業利益を計上。

■ Solution事業
■ SaaS事業

(単位：百万円)



売上高・営業利益進捗率*

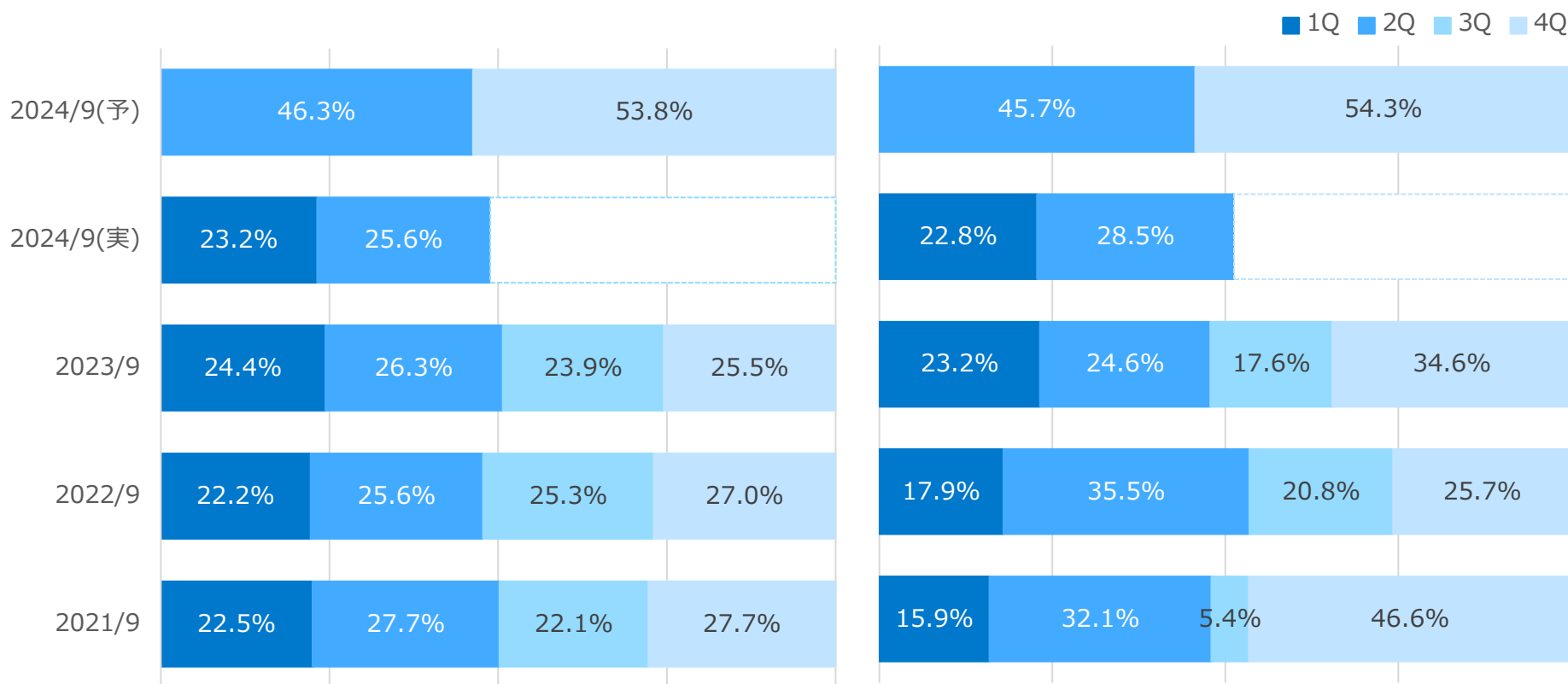
* 当期の進捗率：四半期実績値 / 通期業績予想値
 前期以前の進捗率：四半期実績値 / 通期実績値
 (小数第二位四捨五入)

売上高については、過去のトレンドから大きな変動は発生していない。

営業利益については、補助金の確定額を研究開発費から控除すること等による偏りがあり、今期も4Qの比率は高い想定。

売上高進捗率

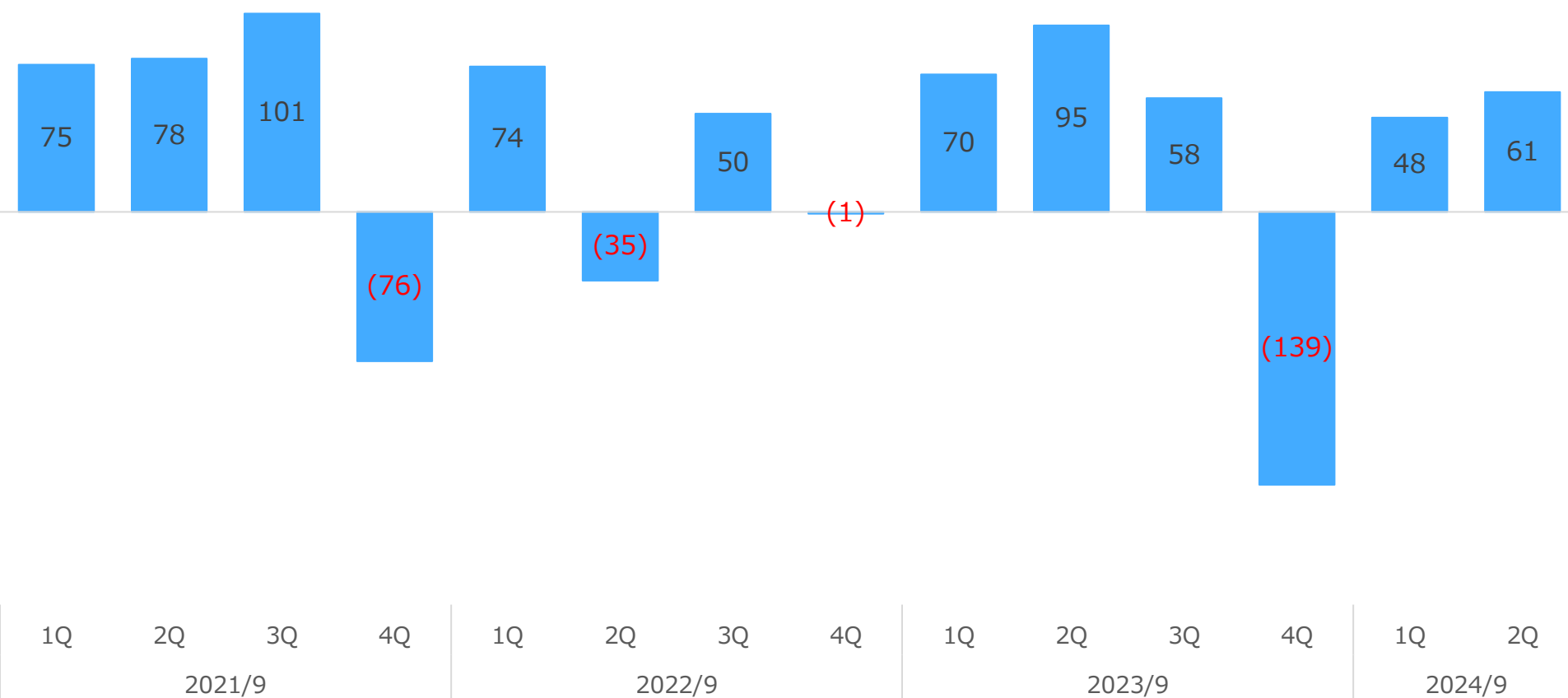
営業利益進捗率



研究開発費

新規SaaS事業向けの研究開発を継続。中長期の研究開発活動においてはNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。
補助金の確定額を研究開発費から控除しており、確定した四半期（各期4Q及び2022年9月期2Q）においては研究開発費の計上額が減少。

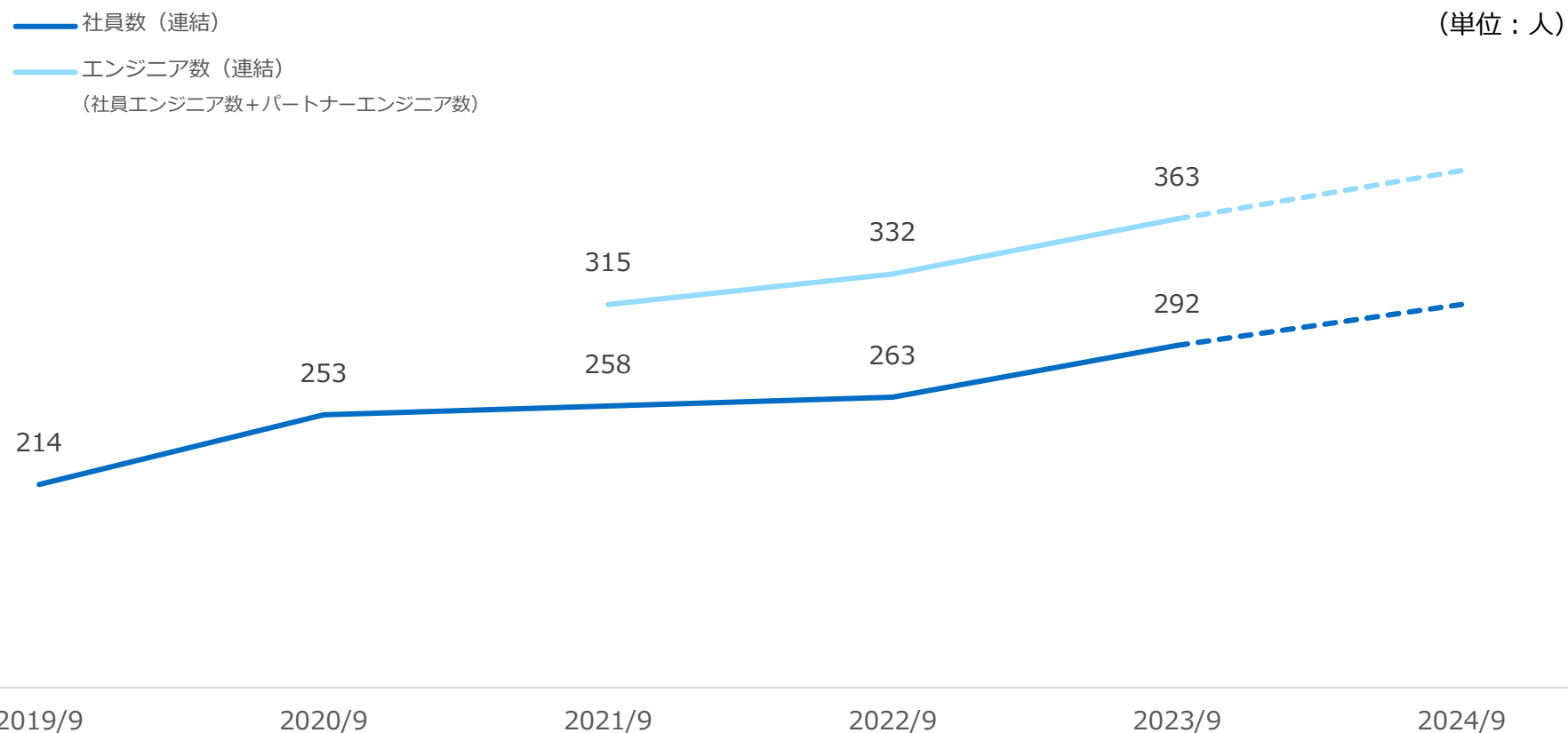
(単位：百万円)



社員数・エンジニア数*推移

採用活動に注力し、様々なチャネルを利用した活動を実施中。パートナー企業のエンジニアも活用し、事業規模の拡大を図る。当期においても前期と同程度の人員増を見込む。2024年4月の新卒採用は18名が入社。

* エンジニア数の集計は2021年9月より



2

2024年9月期 通期業績予想

・ 売上、利益とも過去最高を見込む

- ・ 売上高 : 8,000百万円 (前期比 +13.7%)
- ・ 営業利益 : 2,300百万円 (前期比 +10.2%)

・ 新中期経営ビジョンの初年度

- ・ ソフトウェア高速化、SDK開発等の当社コア技術に対する旺盛な需要を背景に、フロー型収益を拡大
- ・ クラウドサービスやエッジデバイスの提供によりストック型収益を積み上げ
- ・ 採用活動に注力するとともに「技術」と「経営」がわかる人材を育成

連結損益計算書・配当金

3期連続で増収・増益（売上高・利益ともに過去最高）を見込む。

配当は連結配当性向30%を目安に実施する方針としており、増益に伴い増配の予定。

| (単位：百万円) | 2023年9月期 | 2024年9月期 | |
|---------------------|----------|----------|--------|
| | 実績 | 予想 | 前期比 |
| 売上高 | 7,038 | 8,000 | +13.7% |
| 営業利益 | 2,086 | 2,300 | +10.2% |
| 売上高営業利益率 | 29.6% | 28.8% | ▲0.9pt |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 1,447 | 1,550 | +7.1% |
| 売上高当期純利益率 | 20.6% | 19.4% | ▲1.2pt |
| 1株当たり当期純利益 | 45.01円 | 48.17円 | +6.9% |
| 1株当たり配当金 | 13円 | 14円 | +1円 |

3

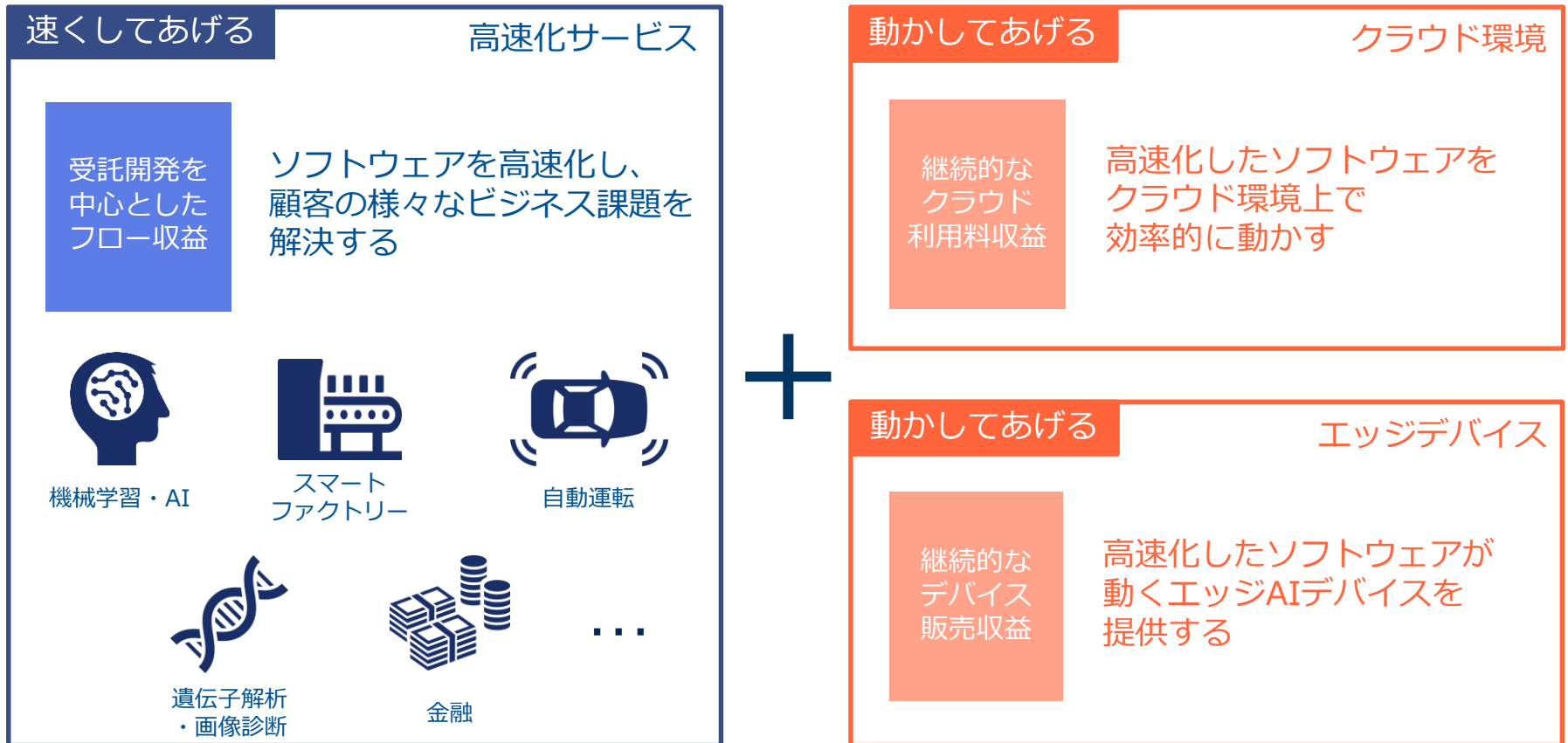
補足資料

3

補足資料① 個別事業の状況

「速くしてあげる」 + 「動かしてあげる」

主力である受託開発（速くしてあげる）を中心としたフロー収益だけでなく、その動作環境も提供する（動かしてあげる）ことでストック型収益を拡大し、より強固なビジネスモデルを構築します。

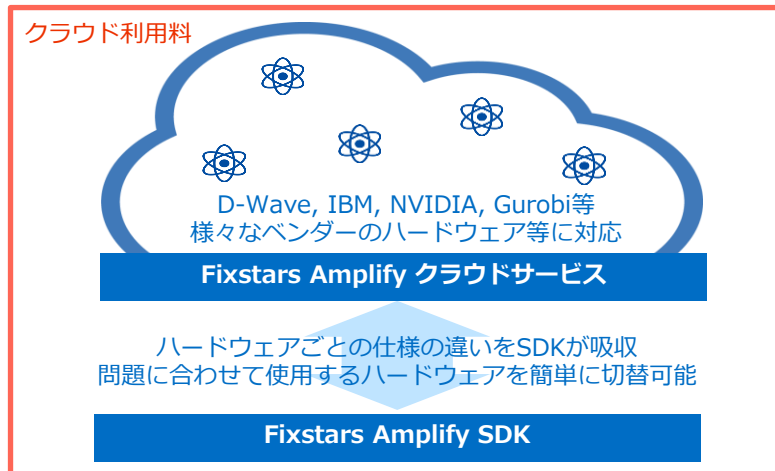


量子コンピューティングクラウド事業

組み合わせ最適化問題の解決のために最適なハードウェア等を柔軟に選択できる、Fixstars Amplifyクラウドサービスを展開。

問題解決のためのコンサルティング・ソフトウェア開発等（フロー型収益）とクラウド利用料（ストック型収益）の両面で事業を推進しています。

サービス概要



ハードウェアにとらわれずに汎用性の高い記述が可能
より簡単に分かりやすいアプリケーション開発環境を実現



事業の状況

- サービスの機能強化¹、事例の蓄積²等に伴い引き合いが増加
 事業主体のFixstars Amplify社は単独で黒字化
 - 1) 「NEC Vector Annealingサービス」への標準対応: <https://news.fixstars.com/4516/>
 大幅な改良となるSDKバージョン1.0リリース: <https://amplify.fixstars.com/ja/news/15/>
 - 2) 顧客活用事例: <https://amplify.fixstars.com/ja/customers/>
 日テレ「ARMプラットフォーム」への参画: <https://www.ntv.co.jp/info/pressrelease/20231127.html>
- 登録組織数：690 総実行回数：3,542万回
 (2024年3月末現在)

今後の施策

- 大学や産業界と連携し、実社会問題を1つずつ解決、
 実運用事例を積み上げていく
- Amplifyクラウドサービスのユーザを拡大・活動を支援し、
 実証実験等の促進に繋げる
- Amplifyクラウドサービスの拡張を続け、実社会問題への
 対応領域を広げるとともに、量子コンピューティング
 プラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す

大規模言語モデル（LLM）開発環境の整備・高速化

さくらインターネット社との共同研究を通じて、同社が提供する「さくらのクラウド」や「さくらの専用サーバ」などのクラウドサービス向けに、各企業等が自社の独自LLMを、世界最高効率（価格性能比）で開発できる環境の整備を目指します。

研究開発の目標

- ☑ 基盤モデルを各社が自社向けにファインチューニングするための環境、および推論等の実行環境を整備する
- ☑ 上記環境の高速化を図り「世界最高効率の開発環境」を目指す

独自LLMの開発
(フロー型収益)




環境利用料
(ストック型収益)

当社としての狙い

- ☑ 各社が独自のLLMをより容易・安価に開発できる、競争力の高いLLM開発基盤を提供する
- ☑ 構築したLLMの実行環境もクラウドサービスとして提供することにより、新たな収益源を獲得する

事業の状況・今後の施策

- ☑ さくらインターネット社と共同での研究開発を実行中

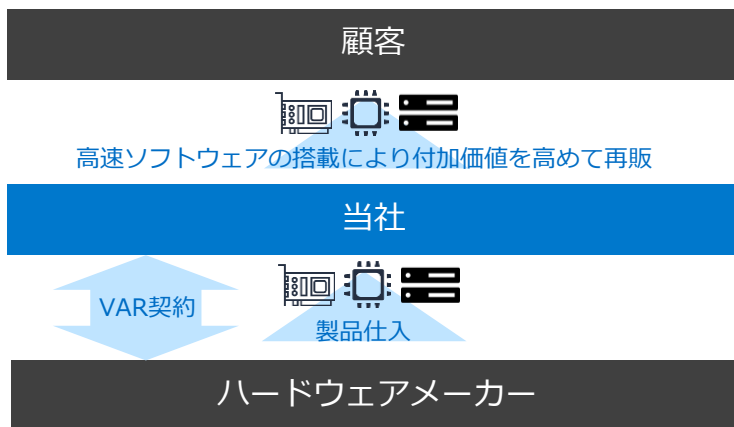


- ☑ LLM開発基盤クラウドサービス「Fixstars K4」のサービス開始
レトリバ社との資本業務提携を通して事業展開を加速
- ☑ パートナー企業、研究機関や産業界と連携して開発を進めるとともに、実運用事例を積み上げていく

VAR (Value Added Reseller) としての取り組み

ハードウェアメーカーの製品に、より付加価値を高めるソフトウェアを搭載して販売する取り組みを行っています。
既に実績のあるAMD-Xilinx FPGAボードのみならず、ドローンや各種センサーなど、当社の技術が強みを持つ分野での拡大を目指します。

事業の概要

- ハードウェアメーカーの製品に最適化された高速なソフトウェアを搭載し、より付加価値の高い製品として販売する
 - ・FPGAボード上に高速・高効率な回路を実装
 - ・ドローンに自動飛行機能を付加



当社としての狙い

- 製品販売による継続的な収益
エンジニアの人数に依存しない収益モデルを構築する

今後の施策

- AMD-Xilinx FPGAボードの販売拡大



Alveo Accelerator Card Partner Network /
Solution Integrators

- ルネサスエレクトロニクス社のパートナープログラム活用



Preferred Partner Program

BIG IDEAS FOR EVERY SPACE

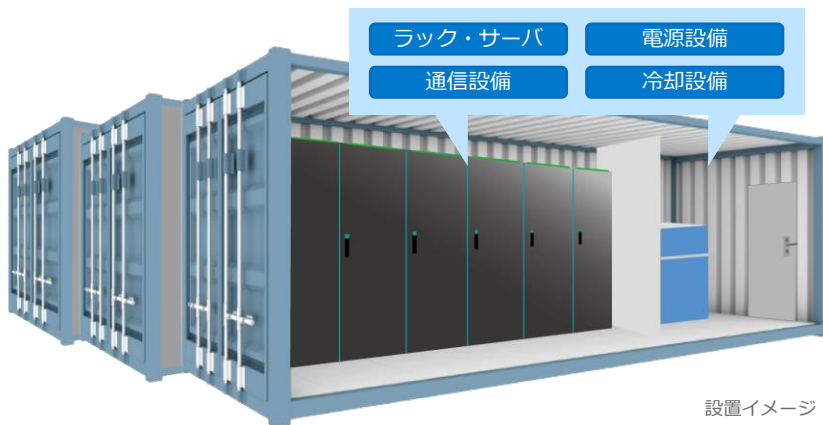
- ドローン、各種センサー、水冷サーバ等、新しい商材での事例構築

AI時代を見据えた高性能データセンター

2024年10月稼働開始を目標に、長野県にコンテナ型水冷データセンターを開設予定。
県からの助成金を活用し高性能データセンターを構築、ストック型収益の拡大を目指します。

データセンターの概要（予定）

- ☑ コンテナ型データセンター
大規模な建物設備が不要で設置場所の柔軟性が高く、迅速に構築が可能
- ☑ サーバの冷却に水冷方式を採用
従来の空冷方式に比べ冷却性能・エネルギー効率が高く、高性能（高発熱）なサーバの運用が可能



背景・狙い

- ☑ 膨大な計算を必要とする生成AI等の発展に伴い、サーバの消費電力・発熱も増大を続ける中、「サーバをいかに冷やすか」が課題になりつつある
- ☑ コンテナ型・水冷方式での商用運用を国内でいち早く開始し、他社に先行して知見を蓄積する
- ☑ 顧客ニーズに特化して開発した高速アプリケーションを運用できる体制を整え、データセンター利用料に加えてシステム運用費等の追加収益を獲得する

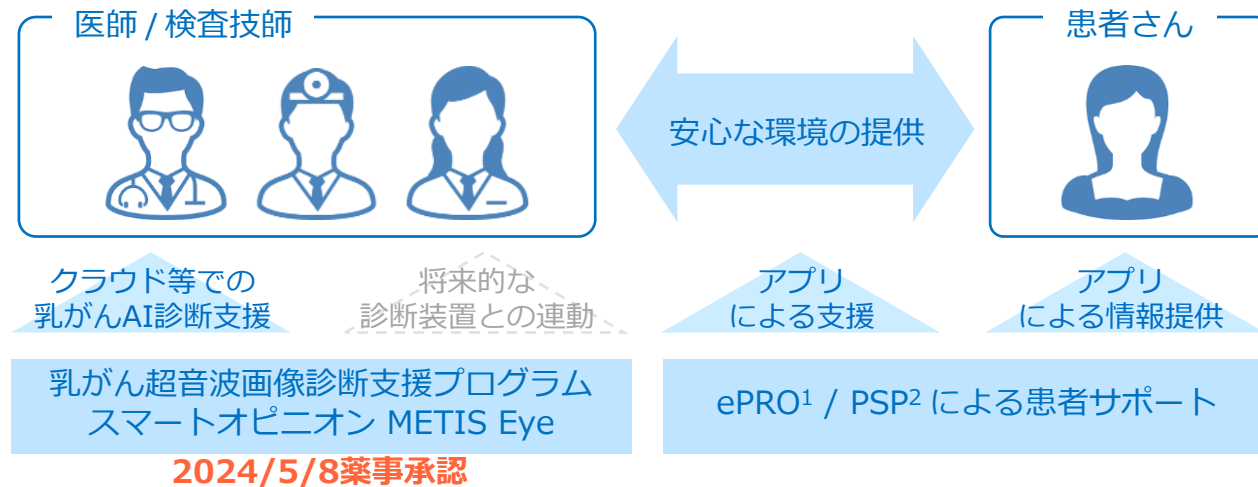
今後の展開

- ☑ 2024年10月の稼働開始を目標に、機材調達と実証実験を実行中
- ☑ 2027年9月期にかけてコンテナ設備・サーバ等を中心に約8.4億円の設備投資を予定（うち3億円が長野県から助成予定）

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

サービス概要



Smart Opinion (当社子会社)

Note: 1) e-Patient Reported Outcomes: ITを活用して、患者の症状や副作用の状況をモニターするシステム

2) Patient Support Program: 疾病やその治療に関する情報提供、多様な患者ニーズへのサポートなどを通じて、患者のQOL向上に寄与することを目的としたプログラム

事業の状況

- 医療機器プログラムとして
5月8日に薬事承認
(名称: METIS Eye)
- 画像管理システム (PACS) と
連動したスムーズなサービス
の提供を準備中
- 製薬会社向けに、ePRO及び
PSPによる、患者サポートを
提供

今後の施策

- METIS Eyeの医療機関への
販売開始は本年夏を予定
- 女性向け啓蒙キャンペーン展開
痛くないエコー検診
×
AIチェック

テクノロジーの支援を目的としたCVCを設立

日本のテクノロジー発展のために、AIを中心としたディープテックスタートアップへの投資及び育成を行ってまいります。

設立の目的・意義

- ✓ ディープテックスタートアップへ投資及び育成を行うことによる日本のテクノロジー発展への寄与
- ✓ 当社の培ってきたAI開発及び高速化技術により投資先の事業成長を加速
- ✓ 投資先企業のIPOやM&A等によるExit、キャピタルゲインの獲得

投資領域

- ✓ AIを中心としたディープテックスタートアップ

投資実績



- ✓ 第1号の投資案件として株式会社レトリバへの投資を実行（2024年4月）
- ✓ 当社とレトリバ社の強みである生成AI/LLM（大規模言語モデル）技術を活用した共創事業を目的とした資本業務提携



4

補足資料② フィックスターズについて

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

| | |
|---------|--|
| 会社名 | 株式会社フィックスターズ |
| 本社所在地 | 東京都港区芝浦3-1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 28階 |
| 設立 | 2002年8月 |
| 上場区分 | 東証プライム（証券コード：3687） |
| 代表取締役社長 | 三木 聡 |
| 資本金 | 5億5,446万円（2024年3月末現在） |
| 社員数（連結） | 292名（2023年9月末現在） |
| 主なお客様 | キオクシア株式会社 ルネサスエレクトロニクス株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス みずほ証券株式会社 |

グループ体制

株式会社フィックスターズ

Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社
米国での営業及び開発

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV
自動運転向けソフトウェア開発に特化

株式会社Fixstars Amplify

100%子会社
量子コンピュータ関連のクラウド事業

株式会社Sider

100%子会社
AIコードレビュー “CloneTracker” 事業

株式会社Smart Opinion

連結子会社
乳がんAI画像診断支援事業

オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社
ソフトウェア自動並列化サービス

株式会社Drone Autopilot Lab

連結子会社
ドローンの自動運転クラウド事業

株式会社Fixstars Investment

100%子会社（2024年4月設立）
ベンチャー企業への投資及び育成を行う
投資事業会社

コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

| 年月 | 出来事 |
|-----------|---|
| 2002年 8月 | 神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更 |
| 2004年 7月 | マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始 |
| 2006年 12月 | PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ |
| 2008年 12月 | GPU高速化サービス開始 |
| 2009年 12月 | 「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版 |
| 2010年 11月 | 米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入 |
| 2011年 10月 | FPGA高速化サービス開始 |
| 2012年 1月 | NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始 |
| 2014年 4月 | 東京証券取引所マザーズ市場に上場 |
| 2016年 11月 | 東京証券取引所市場第一部に市場変更 |
| 2017年 6月 | 量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始 |
| 2018年 2月 | 自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立 |
| 2021年 10月 | 量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立 |
| 2022年 4月 | 東京証券取引所の市場再編に伴い、東京証券取引所プライム市場に市場変更 |

コンピュータの恩恵を人々に

計算機器の性能を最大限に引き出すソフトウェア高速化技術とSDK開発技術を軸に、
コンピュータの活用がより一層進むこれからの世界を支えていきます。

フィックスターズの高効率なソフトウェアが、 クラウドとエッジの両サイドでコンピューティング基盤を支える世界の実現

ソフトウェアを効率的に動かすことで

パーパス

- できなかった計算をできる計算にする
- コンピューティングに必要な消費電力を低減する

コアバリュー

ソフトウェア高速化技術

SDK開発技術

ハードウェア・ソフトウェア両方に対する深い理解・知見

ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



当社

オリジナルソースコードのご提供

高速化したソースコード



お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- アルゴリズムの改良・開発
- レポートやコードへのQ&A
- ボトルネックの特定
- ハードウェアへの最適化
- 実製品への組込み支援
- レポート作成

高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

多様な産業分野における高速化ソリューション

Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility¹

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速化による
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化（1車種）のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる（当社推計）

高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域

社会的価値



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽でより質の高い
診断・治療へのアクセス



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

